

地域の公共施設のこれからを考えるワークショップ（葛塚地域）

第 2 回ワークショップの結果概要（案）

2016 年 11 月 20 日（日） 豊栄地区公民館

【公共施設の現状の課題】**■ 不足している施設**

- 夜間に利用可能な市民活動のための会議室や、学生のための学習スペース、スポーツ施設などは予約するのが難しく、数が足りていないと感じる。
- 駅北や太田地域には背の高い公共施設がなく、災害時に避難できる場所が身近にならないため、太田小学校については防災拠点として残してほしい。
- 学童施設には定員をオーバーしているものもあり、駅北から駅南に通う児童も多いため、駅北にも新たな施設が必要ではないか。
- 大学のキャンパス以外に、学生が集まったり夜遅くまで勉強ができる場があれば安心であり、地域との交流の機会も設けることができる。

■ 運営方法・使い勝手

- コミュニティセンター以外の会議室は、夜間は閉まっているが、こうしたスペースを開放せず使わせないのはもったいない。
- 施設の使用目的を限定すると仕様や利用ルールの制限のため、他の目的での使用がしにくくなってしまう。例えば文化会館では飲食を伴うイベントができず、他の施設を使わざるを得ない。
- バリアフリー化されていない施設があり、高齢者や障がい者にとって使いにくい。2階に行くのにエレベーターがない施設もある。
- 施設の内容や利用方法、また、施設再編後にどう変更されたかなどの情報が十分に周知されていないために、利用率が下がっているのではないか。

【地域づくりの視点】**■ 財政負担を将来に残さない**

- 類似の機能を持った施設を統合して無駄をなくすことで、財政負担を軽減すれば良い。
- 年月が経てば、人口構成や住宅地の増加など状況が変化することを考えると、現状にだけあわせるのではなく、数十年後を見据えて計画することが重要だ。
- 託児施設などの現状で足りていない施設を充実することは必要だが、新規に作るのではなく、既存施設を活用し、民間の力を導入すれば、財政面からもよいのではないか。

- 財政コストを下げるために施設を再編することや、収益性を重視することが必要だというのは理解できるが、生活者にとって必須なサービスや、文化芸術から必要な施設は、収益性が無くても地域に残したい。

■公共サービスの充実

- 地区外から人を呼び込むことよりも、葛塚地区の様々な世代の住民のために公共施設を充実させることを第一に考えるべきだ。
- 財源が限られているのであれば、子どもや子育て世代のためのサービスに予算を割き、この地区の子育て世帯や将来人口の増加を図るべきだ。
- 多くの学生や若い人が利用するような賑わい拠点があれば、地区内に住む若い世代が増え、まちを維持していけるのではないか。
- 子どもや若者と高齢者が交流する場ができれば、双方にとって良い効果があると思う。
- スポーツ施設のアクセスを向上し、飲食等ができるように整備すれば、健康維持のために施設を利用する高齢者が増え、地域の活性化に寄与すると思う。

■地域のまとまり・中心性

- 中心部にコンパクトに施設を集中させた方が、建物の維持管理や管理のための人材コストなどが下がり、効率的に維持運営ができるのではないか。
- 中心にあっても良い施設と身近に欲しい施設があるので、施設の種類によって集中型と分散型とを分けて考えてはどうか。避難所、地域コミュニティのための集会所やスポーツの場、高齢者や子どものための施設などは身近に配置してほしい。

■地域活性化

- 現状では地域活性化に資するような施設がこの地域にないので、イベントなどが開催できる核施設をつくり活性化に結び付けたい。
- ボランティア活動を継続しておこなえる拠点施設があれば、こうした活動を通じて地域の活性化ができるのではないか。
- 市内の他の地区にないから作れないという発想ではなく、他の地区にない独自性のある施設こそ作るべきではないか。

■負担の公平性やバランス

- 公共施設が集中している場所から既存の施設を減らしてでも、防災施設など不可欠な施設が不足している地域には施設をつくるべきだ。
- 地区内の施設配置は、様々な世代にとって利用しやすく利便性が確保できるように考えることが重要だ。
- 中学校区は基本的に歩ける範囲なので、その単位で施設配置を考えるのならば、駅の南北でバランスを取ることにこだわらなくても良いのではないか。

■ 効率性

- 会議室など夜間に使えない施設が多く、効率性の点から見てもったいない。
- 公共施設の再編では、財政面や採算性だけでなく、葛塚地区にはどんなサービスが必要かについて先ずは考え、地域の思いや歴史的背景も考慮した上で整理すべきだと思う。

■ 利便性

- 葛塚地区内の利用だけでなく、北区全体や区外から来る人達の利便性にも配慮が必要だと思う。

■ 追加すべき地域づくりの視点

- 湯東の事例として示されている地域づくりの視点は、葛塚にも当てはまる。欠けているものがあるとは思わない。
- 避難所の整備は地区にとって大きな課題であり、地域づくりの視点としても「安心・安全の確保」が重要な要素ではないか。

【課題解決の諸方策】

■ 複合化・多機能化

- 公共施設を複合化・多機能化することでワンストップでのサービスを提供することができる様になり、利便性が向上すると思う。
- 新区役所にコミュニティセンター、文化会館、さわやか健康センターなどの機能を複合すれば、様々なサービスを一カ所で受けられるので利便性が高まる。
- 様々な手続きが別々の窓口で行われると手間と時間がかかるので、行政窓口を集約化してほしい。
- 公共施設と商業施設が集約されていれば、買い物ついでにイベントに参加することなどができて利便性が高まる。
- 市民活動に使えるスペースが足りない状況なので、複合化や多機能化によって使えるスペースが増えると良い。
- コミュニティセンターに託児機能を複合するなど、子育て層が使いやすくなるように施設を整備できたら助かる。
- 利用率が低い博物館などの施設も、違う目的の施設と多機能化すれば、ついでに立ち寄ることができ、利用者が増えるのではないか。
- 昼は空いているが夜は混んでいる施設と昼は混んでいるが夜は空いている施設の利用を調整するように工夫すれば、スペースの利用に無駄がなくなる。
- 施設の再編に伴って多目的スペースを整備することができたら、地域に足りない子どもの居場所や学生のための勉強の場が確保でき、空き時間のない有効なスペース活用も可能になるのではないか。

■施設の統合

- 郷土博物館は類似しているビュー福島湯や学習効果が期待できる児童館などの他施設と統合することで、利用者を増やすことができるのではないか。
- 豊栄公民館と葛塚コミュニティセンター、児童館と児童センター、さわやか老人福祉センターと健康センターなどの機能や役割が近い施設は統合して、利用率アップや財政負担の軽減を図ってはどうか。
- 類似施設を統合した際に空いた土地は、売却すれば収入につながる。

■利用料収入

- 利用率が低い施設は利用率を上げる企画を考え、利用料金が取れる施設からは値上げしてでもしっかりお金を取るようにして、稼げる公共施設にしていく必要があるのではないか。
- 価格に見合う価値がないと使わないので、類似施設との違いを明確にアピールしたり、高い料金を払ってでも使いたいと思える魅力のある施設にする必要がある。
- 行政サービスによっては無料で提供すべきものもある。

■民間活力

- 公共で新たな施設をつくることを止めて、既存施設の活用や民間活力の導入などの知恵をつかって、地区に足りない機能を補う方策を考える必要がある。
- 高齢者をまちの中心に集めて、住んでもらい、移動しやすい環境と行政サービスを効果的に提供していくという考え方があるが、コスト面などから公共だけでは実現が難しそうなので民間の力を使ってやってはどうか。
- 新潟医療福祉大学の様々な学部の力を借りて、幅広い世代を対象にした魅力ある企画を一緒に行ったり、サテライトキャンパスを地区中心に設置して学生と地域との接点を作るなどの連携ができると活性化につながる。
- 災害時の身近な避難場所が少ない地区では、保育園や病院などの民間の運営する施設との連携を深め、いざという時に避難所として使えるようにできるのではないか。民間活力も導入して避難対策を強化したい。

■拠点施設

- 立派なものでもなくても良いので1000人規模のイベントを開催できる多目的スペースがあるとよい。そのスペースを核として周囲に土産物屋や飲食店があり、人が流れる様になれば地域にお金を落とす仕組みができる。
- ボランティアや市民活動のための拠点となる施設、市民活動センターのようなものがあると、そこで交流が生まれ、つながりができて活動の発展にもつながる。

■使い方・運営

- 特定の年齢の利用者しか使えない、特定の用途にしか使えないというルールを緩和し、多様な世代が様々な目的で使えるようにすることで、利用度が上がり、世代間交流の機会も生まれる施設になるのではないか。
- コミュニティセンターのうち需要のある施設は開館時間を延長することも必要だ。利用者の要望を聞きながら、利用時間帯や休館日を柔軟に設定して欲しい。
- 公共施設全般で高齢者や障がい者の使いやすさを考えた部屋の再配置を検討してはどうか。例えば足の悪い高齢者や障がい者の利用が多く想定されるスペースは1階にすれば、利便性を高めることが出来ると思う。
- 夜間に開館するのに新たに人を雇う必要があるのなら、利用する団体がボランティアで管理をしても良いのではないか。

■公共交通サービス

- 施設の再編を行って中心部に施設が集中した場合には、そのために公共施設へのアクセスが不便になった地区の足を確保する策を同時に検討する必要がある。
- 車を運転できない高齢者や障がい者、学生などの利便性や安全性を考えると、公共交通の整備は不可欠。主要な公共施設間を結ぶ循環ルートや買い物などの日常の用事も済ませられるルートなど利用しやすい経路を考え、本数も整備してほしい。
- コミュニティバスを通すのには相当お金がかかるので、本当に必要かを慎重に考えるべきではないか。病院や福祉施設などが走らせているバスに同乗できるなどの連携を図ることも検討してはどうか。
- 多くの人が車でアクセスせざるをえない状況を考えると、いずれの公共施設でも十分な駐車場の整備が必要だ。

■ソフト策

- 新たに施設を作ったり統合したからといって利用率が上がるわけではないので、だれがどう運営していくかが重要になる。既存施設の利用率を上げるためにも、魅力的な企画やサービスを提供することが大切だ。
- 場所がないから運営する人が出てこないという面もあるのではないか。場ができればそこを使って何かしようという動きが出てくると思うので、まず場を整えることも大切だ。
- 地域ごとの行事やお祭りの復活や商店街の空き店舗を活用した手作り弁当の提供など、高齢者と若者、地域と大学生とのつながりを深めるためのソフト策を検討してはどうか。
- 利用率を上げるには施設の持つ機能や利用方法の情報をもっと地域内で共有できる工夫が必要だ。
- 学生には公共施設の情報が入ってこないので行くきっかけがない。若者への情報提供手段としてはSNSなどを使うと良い。

【検討の進め方】

- 既に議論が進んでいる区役所新庁舎基本構想検討会議とこのワークショップの関係はどうなっているのか教えてほしい。ここで出される新区役所に関する意見は反映されるのか。
- 新区役所の検討会議で何を話しているのかを知らないで話し合いを進めるのは問題なので、検討委員会の情報をきちんと提供してほしい。
- 新設区役所と太田小学校跡地の2カ所に重点をおいて検討した方が良いのではないか。
- 公共施設の再構築のための考え方や、削減しなければならないコスト、施設規模などの数字を先に提示してもらった上で話し合う方が議論が深まるのではないか。
- 施設の統合や削減ばかりを話していても魅力的なまちにはなっていない。防災や地域活性化の視点から、それに資する建物を新たに作る要望も出していきたい。
- 配布資料の数が多いので資料番号を言われても探すのが大変だ。すべての資料を冊子にしてページ数でアナウンスしてもらったほうがわかりやすい。